

リーディングプロジェクトの取組状況

既存事業	検討すべき取組	事業名	事業内容	実施状況 (プルダウンから選択)	令和4年度の実施、検討状況 ・動き ・上期での成果 ・下期の予定等	令和5年度以降の予定 ●年から実施・●年終了・継続・改善・縮減・廃止等の見込み	事業の進捗が思わしくない場合、その理由	備考 ※関係課、関係団体	主管課
■リーディングプロジェクト① 地域資源を活用し海を汚染から守る									
1	●	南砺ブランド商品開発支援事業	「南砺の逸品」の価値向上を図るため、販路拡大や首都圏でのテストマーケティングを行うとともに、新たなブランド商品の開発やブラッシュアップを行う。	令和元年度以前から実施	ブランド商品開発等支援事業補助金申請 上期：1件、下期1件。首都圏大型展示会出展（2月）であと5件申請見込。第2期登録商品募集中。 Web限定送料無料キャンペーン実施。	第2期南砺ブランド商品開発支援事業「南砺の逸品」開始。	-	南砺ブランド商品開発支援事業実行委員会	商工企業立地課
2	●	クリエイティブ産業振興・発信事業	クリエイタープラザの集客を強化し、産業振興・クリエイター育成に取り組む。	令和元年度以前から実施	・「南砺の逸品」製作体験講座実施 ・クリエイタープラザ入居促進補助金 上期：0件、下期：新規1件 ・富山コンベンションビューローからの学会会場視察対応。	継続	-	(一社) PARUS	商工企業立地課
3	●	海岸漂着物対策推進事業	海ゴミや海岸漂着物の発生抑制のため、市民に対して普及啓発を行う。	令和2年度から実施	上期：出前講座3回 下期も引き続き、出前講座などの機会を得て、上流域から海岸漂着ごみを発生抑制する大切さを広く市民に伝える。	出前講座などで、海岸漂着ごみ発生抑制の普及啓発を継続実施する。	-	生活環境課、南砺市環境保健協議会	エコビレッジ推進課
4	●	ESDの推進	ふるさと教育を通して世界遺産の学習や環境・国際交流事業を行い、持続可能な社会を目指し、諸問題に対して自分の事として考え、行動する児童生徒を育成する。	令和元年度以前から実施	福野小学校はユネスコスクールに認定され、環境や国際交流事業等を実施している。上平小学校及び平中学校もユネスコスクールの認定に向けて活動を行っている。	令和5年度以降も継続して実施していく	-	-	教育総務課
■リーディングプロジェクト② 豊かな農景観を守る									
5	●	散居村景観保全事業	散居村の屋敷林の枝打ち等を支援することで、代々受け継がれてきた散居景観の保全・育成の取組を進める。	令和元年度以前から実施	散居景観の保全・育成を図るため枝打ちや間伐等の事業を実施。（令和4年度57件の実施）事業趣旨の理解を図るため、10/25県、砺波市と井口つばき館にて、枝打ち業者向けの研修会を開催。	散居景観の保全・育成を図るため枝打ちや間伐等の事業を継続し実施。	-	富山県、砺波市	農政課
6	●	侵入防止柵設置支援補助金	イノシシ等の野生鳥獣による農作物への被害対策として、鋼製侵入防止柵等の設置に対し補助金を交付する。	令和2年度から実施	鋼製柵が13地区で計3,650m整備される予定。	継続	-	-	林政課
7	●	森林・林業担い手育成事業	森林整備を促進するため、森林の利活用を進める技術研修会を開催し、人材の育成を図る。	令和2年度から実施	TOGA森の大学校において森林整備や森林利用に関する研修会を開催。令和4年度は5月から実施しており、2月までを予定している。 【R2～4年度実績】 塾生人数（うち林業就業数）： R2年度9人（3人）、R3年度9人（1人）、R4年度8人（1人）	継続	-	-	林政課
8	●	オーガニック農業の推進	間伐材等の樹皮（パーク）を堆肥化させる過程で発生する発酵熱及び発酵ガスを活用した農業の推進。	令和元年度以前から実施	令和元年度、安心安全で美味しい農作物を作成するための協議及び堆肥づくりのための堆肥舎の設置。 令和2年度から、堆肥舎を活用したオーガニック農業を推進。	令和5年度以降も継続して実施していく	パークの発酵条件や費用面での課題があり、継続した事業の実施が難しい。	桜ヶ池バイオマス農業推進協議会、農政課	エコビレッジ推進課
■リーディングプロジェクト③ 災害時の地域を支える再生可能エネルギー									
9	●	ふるさと教育推進事業	児童・生徒のふるさとを大切に思い、誇りを持つ心を育てるため、伝統産業に関する活動や市を県内外に発信する活動など、市への理解を深める事業を行う。	令和元年度以前から実施	地域から市のよさを学ぶへ新たな学習にも取組み、南砺市の仕組みや特徴等について理解を深めている。学習の中で郷土のために出来る事を考え、提案も行っている。	令和5年度以降も継続して実施していく	-	-	教育総務課
10	●	再生可能エネルギーの自給自足	地球温暖化対策、地域資源の有効活用による持続可能な循環型社会の形成に向けて、再生可能エネルギーの導入拡大を推進する。	令和元年度以前から実施	【熱】ストーブ設置補助：上期7件 公共施設での利用量上期：423t(前年同期423t) 下期：出展事業などで木質燃料の経済、環境面での優位性などを啓発する。ペレットストーブ設置補助金などを継続して周知する。燃料製造事業者に対して販路開拓など必要な支援を実施する。 【電気】太陽光発電設備導入補助：上期3件 太陽光、小水力といった地域産電源の市内活用策を検討する。	【熱】民間側での導入促進を図るため、R5年度からペレットボイラー設置補助金を創設する。その他、ストーブ販売店や燃料製造事業者など関連事業者との連携を深め、木質燃料の普及拡大に取り組む。 【電気】太陽光、小水力といった地域産電源の市内活用策を検討する。	【熱】公共施設導入のペレットボイラーの予期せぬ故障により、木質燃料の利用量が減少。保守点検など維持管理体制の見直しが必要。 ペレットユーザーのニーズが圧倒的にホワイトペレットにあることから、民間側への拡大を図るためには、ホワイトペレット導入の検討が必要。	交流観光まちづくり課、生涯学習スポーツ課、福祉課、南砺中央病院、南砺森林資源利用協同組合	エコビレッジ推進課
11	●	強靱な情報インフラの整備	自然災害等があっても、いち早く元の状態に回復できるインフラの整備	令和元年度以前から実施	事業継続が出来るようにバックアップルートを確保している。T S Tがネット環境の高速大容量化に取り組んでいる。	庁舎統合による情報インフラの再構築を検討する。	-	(株) TST	情報政策課

■リーディングプロジェクト④ 誰もが安心して暮らせるまちづくり

12	●		住民自治組織強化事業	小規模多機能の手法を用いた住民自治組織は、地域毎に問題・課題も多く存在し、解決方法も1つではないことから、先進事例や成功例・失敗例などを学ぶ機会を創出するため、セミナーを開催する。	令和元年度以前から実施	小規模多機能自治が始まって3年経過し、地域づくり協議会の役員や事務局員等の交代もあり、当初の小規模多機能自治の理念が薄れつつあったが、セミナーを通して改めて小規模多機能自治を理解する機会となっている。住民アンケートは取組みの基礎となる大変重要な方法であるとして、各地区でのアンケート実施を促す研修会を行った結果、いくつもの協議会がアンケート実施に向けて動き始めたのは成果と言える。	継続	-	なんと未来支援センター 地域づくり協議会	南砺で暮らしません課
13	●		地域内移動サービス実証実験事業	地域づくり協議会等が主体となり、各地域で送迎サービスを実施するもの。	その他(右の欄に状況記入)	令和4年度は実施予定なし。	基本的な交通インフラは、JR城端線や民間路線バス、市営バスやタクシーなどの公共交通が担うべきであるが、地域づくり協議会等が担うことが可能なサービスを引き続き検討していく。	-	-	政策推進課
14	●		なんバスで暮らそう事業	なんバスシルバーバス事業： 公共交通の利用促進、高齢者の運転免許自主返納を推進するため、70歳以上の方に市営・民間バス路線の市内区間乗り放題バスを販売する。 とやまロケーションシステム： 県及び県内市町村と連携し、県内全域のバス路線情報をスマホ等で入手できるシステムを構築する。	令和元年度以前から実施	令和4年10～12月の期間、市営バスのデマンド方式による実証運行を行った。	市営バス21路線のうち、各地域内を循環する路線については今後デマンド化などの見直しが必要となっている。	-	-	政策推進課
15	●		公共交通のキャッシュレス決済対応	JR城端線や民間・市営バスにキャッシュレス決済を導入するもの。	その他(右の欄に状況記入)	JR城端線についてはICカードなどキャッシュレス対応を引き続き要望している。加越能バス(株)の一部路線ではモバイル乗車券が導入されている。	全ての交通モードで可能な限り同一の決済サービスやチケットレスサービスが実現できるよう調査研究しながら、早期に導入していく必要がある。	-	-	政策推進課
16	●		地域包括ケアシステムによる自立支援	地域の支援ニーズとサービス提供主体のマッチング等のコーディネート業務を実施することにより、地域における互助の取り組みを推進する。	令和2年度から実施	第1層協議体で、毎月1回のミーティングを実施。現在は各地区の地域ヒアリングリストにより、地域資源の実態を把握、検証して自立支援に向けて検討している。	継続	-	なんと未来支援センター、南砺市社会福祉協議会、地域づくり協議会	地域包括ケア課
17	●		医療救急体制確保	砺波医療圏で急患センターを設置し、平日夜間および休日の救急医療体制を維持している。	令和元年度以前から実施	平日夜間および休日の救急医療体制について、砺波医療圏内の4公的病院(市立砺波総合病院、北陸中央病院、南砺市民病院、公立南砺中央病院)の輪番制により実施している。	継続	-	南砺市民病院、公立南砺中央病院	医療課
18	●		高齢者世帯デマンドごみ収集		未定	地域づくり協議会・社会福祉協議会等関係団体と課題の共有を図っている。	-	-	-	生活環境課

■リーディングプロジェクト⑤ 南砺でワーケーション

19	●		ふるさとワーキングホリデー事業	-	未定	受入れ先となる企業や地域の求人ニーズ、受入体制の状況を調査しながら事業実施について検討を行う。	-	-	-	政策推進課
20	●		空き家バンク活用促進事業	空き家バンクに登録された物件について、賃貸、売買、改修等を行う場合に奨励金を交付するもの。	令和元年度以前から実施	順調に実施 【令和3年度実績】 賃貸借・住宅売却促進補助金 35件 登録促進・賃貸住宅・購入住宅改修補助金 18件 賃貸住宅・売買住宅片付け補助金 29件 空き家バンクを利用する物件が前年度より増えたことから、事業の認知度が上がっていると思われる。	継続	-	-	南砺で暮らしません課
21	●		空き家・空き店舗利用促進事業	空き家・空き店舗を活用して事業に利用する事業者等に、改修経費(事務所改装費、事務所借上げ料等)の一部を支援する。	令和元年度以前から実施	R4申請4件	継続	-	南砺市商工会	商工企業立地課
22	●		観光誘客推進に向けた広域連携事業	(公社)とやま観光推進機構を通じ広域的な誘客促進を図るDMO活動を実施する。	令和元年度以前から実施	コロナウイルス感染症の影響をみながら、国内外のプロモーション等を実施している	令和5年度以降も継続して実施していく	-	金沢市、高山市、白川村、高岡市、砺波市、氷見市等	交流観光まちづくり課
23	●		強靱な情報インフラの整備	自然災害等があっても、いち早く元の状態に回復できるインフラの整備	令和元年度以前から実施	事業継続が出来るようにバックアップルートを確保している。TSTがネット環境の高速大容量化に取り組んでいる。	庁舎統合による情報インフラの再構築を検討する。	-	(株)TST	情報政策課

■リーディングプロジェクト⑥ 次世代に伝える生きる力

24	●		子どもの居場所づくり促進事業	子どもが安心して地域で過ごせる環境の充実に取り組む地域づくり協議会を支援する。 ・多世代交流事業補助金（地域の多世代の方々と交流） ・学習支援事業補助金（子どもたちの学習支援等）	令和2年度から実施	地域づくり協議会5団体（継続2、新規3）が事業実施中 随時実施団体を募集中	事業を継続し、地域における子どもの安心安全な居場所づくりを支援する。	事業実施年度の上限が3カ年であり、4年目以降の活動展開（県補助事業であるさんさん広場推進事業への移行等）につなげる仕掛けの検討	地域づくり協議会をはじめとする地域で子育て支援に関わる団体	こども課
25	●		非認知スキル、課題解決型学習プログラムの導入							主管課調整段階
26	●		ちょいボランティア							主管課調整段階

■リーディングプロジェクト⑦ SDGs ポイントも組み込んだ地域通貨システムの構築で地域内経済循環を図ろう

27	●		なんと（SDGs）ポイント制度運営事業	地域課題解決につながる活動を支えるためのインセンティブとして「なんとポイント制度」を実施する。	その他（右の欄に状況記入）	ポイント付与による地域活動への参加促進が、小規模多機能自治の取組へと深化したことを踏まえて、令和3年度末で制度を廃止した。	令和3年度末で廃止	—	—	政策推進課
28	●		オールなんとSDGs パートナープラットフォーム事業	SDGsを取り入れたまちづくりに賛同し、自分ごととしてSDGsのゴール達成につながる取り組みを市内で実施する企業、団体または個人を「なんとSDGsパートナー」として登録。	令和3年度から実施	「なんとSDGsパートナー」として、SDGsに取り組む企業・団体・個人を登録しHPへ掲載（令和4年11月末時点で90団体登録）。SDGsの自分ごと化推進に加えて、企業・団体間の連携した取組の促進により、新規事業の創造や地域課題の解決につなげる。パートナーを主な対象としたセミナー・交流企画を2月に開催予定。	令和5年度以降も継続。さらなるパートナーの追加登録を行うとともに、パートナーの活動をより分かりやすく発信・見える化することで、パートナー間での連携や地域課題の解決につなげる。	—	市内でSDGsに取り組む企業、団体、個人	エコビレッジ推進課
29	●		地域通貨の導入推進	地域内経済循環とコミュニティの活性化を両輪とした南砺版地域通貨モデルを構築し導入につなげる。	令和2年度から実施	関係者に参加いただき南砺版地域通貨実装にかかる準備会を5回実施。経済にとどまらない地域通貨の利用シーンを掘り起こすのに時間がかかっているが、情報のやりとりや寄付という要素を検討することで南砺版の姿が見えつつある。	継続	—	商工関係者 観光関係者 コミュニティ財団 金融機関 地域づくり協議会	エコビレッジ推進課
30	●		公共交通のキャッシュレス決済対応	JR城端線や民間・市営バスにキャッシュレス決済を導入するもの。	その他（右の欄に状況記入）	JR城端線についてはICカードなどキャッシュレス対応を引き続き要望している。加越能バス（株）の一部路線ではモバイル乗車券が導入されている。	全ての交通モードで可能な限り同一の決済サービスやチケットレスサービスが実現できるよう調査研究しながら、早期に導入していく必要がある。	—	—	政策推進課

■リーディングプロジェクト⑧ 南砺で（田舎）体験 また、こられ

31	●		ふるさと寄付事業	ふるさと納税による寄附金を募り、寄付に対して返礼品を贈る。 ・ふるさとチョイス ・ふるぽ ・JALふるさと納税 ・ANAのふるさと納税 ・楽天ふるさと納税（R4～） ・ふるなび（R4～） 上記ポータルサイトを利用。	令和元年度以前から実施	R4新規返礼品登録 54件 上期 16,031千円 下期 74,311千円（見込）	継続	—	—	商工企業立地課
32	●		なんと！幸せのおすそわけキャンペーン事業	首都圏におけるターゲットを絞ったプロモーションや、金沢市・高山市でのプロモーション、観光コンシェルジュ招聘等を実施し、観光地としての知名度向上、ファン獲得を図る。（実施主体は「なんと幸せのおすそわけキャンペーン実行委員会」）	令和元年度以前から実施	首都圏等における南砺ファン増加につなげる事業を展開している	令和5年度以降も継続して実施していく	—	—	交流観光まちづくり課
33	●		オーガニック農業の推進	間伐材等の樹皮（パーク）を堆肥化させる過程で発生する発酵熱及び発酵ガスを活用した農業の推進。	令和元年度以前から実施	令和元年度、安心安全で美味しい農作物を作成するための協議及び堆肥づくりのための堆肥舎の設置。 令和2年度から、堆肥舎を活用したオーガニック農業を推進。	令和5年度以降も継続して実施していく	パークの発酵条件や費用面での課題があり、継続した事業の実施が難しい。	桜ヶ池バイオマス農業推進協議会、農政課	エコビレッジ推進課
34	●		応援市民登録制度	南砺を想う市外在住の方に「応援市民」の登録と、地域の困りごとの解決に協力してもらおう制度を運営する。	令和元年度以前から実施	応援市民のニーズ調査を踏まえて、定期的な情報発信を行ったり、近隣の大学での募集・応援活動を行った結果、着実に登録者数が増えている。	アフターコロナの取組として、市外でのイベント等での応援市民との交流を活性化する。	—	—	政策推進課
35	●		お祭り応援隊							主管課調整段階

■リーディングプロジェクト⑨ オーガニック農業で食育と関連産業の振興

36	●	なんと自然給食ものがたり	農産物の地産地消を進めるため、小中学校及び保育園でオーガニックを含む地場産食材の活用を推進する。	令和2年度から実施	保育園では有機栽培米おにぎり(7回)や農業・化学肥料不使用じゃがいも等をおやつ時間に提供(3回) 小・中学校では有機栽培米や農業・化学肥料不使用の農産物を使用した給食を実施予定(4回)うち1回はフレンチ給食としてフランス料理店「ランソレイエ」オーナーシェフのプロデュースによる献立の給食を、農業・化学肥料不使用の地場産農産物を活用し実施。 R3年度中に仕込んだ有機大豆を使用した味噌を学校給食で使用。 児童生徒及び保護者に本事業について広く周知を図るため、「なんと自然給食ものがたり」の紹介映像を制作。	継続	事業への理解度が低い。 給食費における係り増し経費が増大。 生産者側の食材の種類や数量が安定していない。 農業・化学肥料不使用の定義が明確でなく、ガイドラインの策定が必要。	南砺市地場産食材活用推進協議会	農政課
37	●	観光誘客推進に向けた広域連携事業	(公社)とやま観光推進機構を通じ広域的な誘客促進を図るDMO活動を実施する。	令和元年度以前から実施	コロナウイルス感染症の影響をみながら、国内外のプロモーション等を実施している	令和5年度以降も継続して実施していく	-	金沢市、高山市、白川村、高岡市、砺波市、氷見市等	交流観光まちづくり課
38	●	なんと！幸せのおすそわけキャンペーン事業	首都圏におけるターゲットを絞ったプロモーションや、金沢市・高山市でのプロモーション、観光コンシェルジュ招聘等を実施し、観光地としての知名度向上、ファン獲得を図る。(実施主体は「なんと幸せのおすそわけキャンペーン実行委員会」)	令和元年度以前から実施	首都圏等における南砺ファン増加につなげる事業を展開している	令和5年度以降も継続して実施していく	-	-	交流観光まちづくり課
39	●	オーガニック農業の推進	間伐材等の樹皮(パーク)を堆肥化させる過程で発生する発酵熱及び発酵ガスを活用した農業の推進。	令和元年度以前から実施	令和元年度、安心安全で美味しい農作物を作成するための協議及び堆肥づくりのための堆肥舎の設置。 令和2年度から、堆肥舎を活用したオーガニック農業を推進。	令和5年度以降も継続して実施していく	パークの発酵条件や費用面での課題があり、継続した事業の実施が難しい。	桜ヶ池バイオマス農業推進協議会、農政課	エコビレッジ推進課
40	●	SDGs教育プログラム推進事業							主管課調整段階
41	●	ESDの推進	ふるさと教育を通して世界遺産の学習や環境・国際交流事業を行い、持続可能な社会を目指し、諸問題に対して自分の事として考え、行動する児童生徒を育成する。	令和元年度以前から実施	福野小学校はユネスコスクールに認定され、環境や国際交流事業等を実施している。上平小学校及び平中学校もユネスコスクールの認定に向けて活動を行っている。	令和5年度以降も継続して実施していく	-	-	教育総務課
42	●	食料産業・6次産業化の推進	6次産業化に取り組む農林漁業者等の所得増大や農山漁村の活性化を図る。	令和元年度以前から実施	R4年度は対象事業なし。農林漁業者の所得増大を図るため、加工、直接販売、サービスなどの6次産業化の取組を支援するものであり、要望等あれば富山県と協議し推進したい。	継続	-	富山県	農政課

■リーディングプロジェクト⑩ SDGs未来都市実現に向けた礎プロジェクト

43	●	ふるさと教育推進事業	児童・生徒のふるさとを大切に思い、誇りを持つ心を育てるため、伝統産業に関する活動や市を県内外に発信する活動など、市への理解を深める事業を行う。	令和元年度以前から実施	地域から市のよさを学ぶへ新たな学習にも取組み、南砺市の仕組みや特徴等について理解を深めている。学習の中で郷土のために出来る事を考え、提案も行っている。	令和5年度以降も継続して実施していく	-	-	教育総務課
44	●	山村留学定住制度	利賀地域の魅力を伝える短期山村留学を実施する。	令和元年度以前から実施	・夏、冬の短期留学キャンプを感染症対策に留意して実施した。 ・長期留学の次年度の留学生の募集を開始しており、今年度中に令和5年度留學生が決まる。	令和5年度以降も継続して実施していく	-	利賀市民センター、交流観光まちづくり課、(公財)育てる会、NPO利賀山川まもる	教育総務課
45	●	地域の困りごと解決事業・副業応援市民プロジェクト事業	移住・関係人口を創出するサービス「スマウト」を活用し、仕事や住まいのオンラインマッチングや地域の困りごとへの解決に繋げる。また、都市部の副業就業希望者の受け入れサービス「スキルシフト」を活用して、市内企業の取組を支援する。	令和元年度以前から実施	順調に実施はしているが、スキルシフトについては関係人口創出や産業振興の意味合いが強いことからR4年度で事業終了し、商工企業立地課で企業の人材確保をサポートとする目的で副業に関する事業を担当してもらうよう検討している。	スキルシフトについては令和4年度末で終了	-	なんと未来支援センター 地域づくり協議会 南砺市商工会 富山銀行	南砺で暮らしません課
46	●	住民自治推進交付金事業	小規模多機能自治の手法を用いた住民自治を支援するため、地域づくり協議会に対する活動費や地域指導員などの人件費として交付金を交付する。	令和元年度以前から実施	コロナ禍での地域づくり協議会の取組みは縮小、中止が余儀なくされたが、Zoomを活用した毎月の情報交換会や各地区取り組み発表会によって協議会同士が刺激し合える良い雰囲気づくりができています。	地域課題や地域住民のニーズに対応した事業展開が、全ての地域づくり協議会で推進されるよう、算定基準の大規模な見直しを行う。	-	地域づくり協議会	南砺で暮らしません課
47	●	事業化促進事業	人口減少による地域課題を解決するための独自の取り組みを行う地域づくり協議会等に対して、事業への取り組みを促進するための初期費用として補助金を交付する。	令和2年度から実施	地域住民自らが主体となって、地域課題を見直す機会となっている。この事業での取り組みを基に、各地域での活動が具現化されることが必要である。予算規模は小さいが、課題解決に向けての布石となる事業である。	住民自治推進交付金に移行	-	地域づくり協議会	南砺で暮らしません課

48	●	(仮称) なんと未来創造塾開催事業	南砺の地場産業の二代目や若手起業家などで意欲のある若手事業者を集め、地域課題に向き合い、魅力ある地域資源や異業種の技術を活かした“新たな事業”にチャレンジする場を創出する場を創出する。	令和2年度から実施	R2:第1期は10名、R3:第2期は9名、R4:第3期は10名が参加し実施している	継続	—	なんと未来支援センター 富山大学 日本政策金融公庫 南砺市商工会 地域づくり協議会	南砺で暮らしません課
49	●	地域内資金循環システム構築事業	地域経済の循環・自立と、住民主体の課題解決を促進するため、南砺幸せ未来基金とも連携し、電子地域通貨(土徳コイン)、南砺版ソーシャル・インパクトボンドについて調査研究を行い、普及啓発をはかる。	令和2年度から実施	地域通貨実装に係る準備会は5回実施し南砺版地域通貨モデルの構築を図っている。 ソーシャルインパクトボンドは、先進地(東近江市)の事例の収集を行った。	継続	—	商工関係者 観光関係者 コミュニティ財団 金融機関 地域づくり協議会	エコビレッジ推進課
50	●	SDGs推進事業	市内企業や市民がSDGsの理念を理解し、普段の生活の中での気付きや、自分ごととして地域課題の解決や持続可能な社会の形成を実現するための、普及啓発を行う。	令和元年度以前から実施	ステークホルダーとも連携し、1月末までに、出前講座(26回)、ブース出展(14回)、その他講演等(9回)を実施し、延べ約3,100名にSDGsに関する普及啓発を行った。また、ECOTOホームページや「SDGs未来都市なんと」のFacebook、Twitterにより随時情報発信を行っている。	・出前講座及びステークホルダーと連携した啓発活動のさらなる実施により、市民のSDGsの認知度を上げるとともに、次のステップとして普段の生活での行動に繋がるよう呼び掛ける。	—	富山県立大学、富山国際大学、市内高等学校、市内小中学校、地域づくり協議会、民間企業、となみ青年会議所、その他SDGsに取組む企業・団体等	エコビレッジ推進課
■リーディングプロジェクト① 成果報酬型の新たな地域づくりの導入(南砺版ソーシャルインパクトボンド)									
51	●	南砺版ソーシャルインパクトボンド事業	民間資金の投入を促進しながら成果を達成した事業に関して支払いを行う仕組み。資金を拠出することによって応援団をつくりながらしっかりと成果を出すことを志向することを期待する仕組み。	令和3年度から実施	先進地(東近江市)の事例収集	継続	—	コミュニティ財団	エコビレッジ推進課